

武蔵野東第一・第二幼稚園

2019 年度 学校自己点検・評価

幼稚園では「学校評価に係わる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」が平成 19 年 10 月 30 日に公布されました。この改正に伴い、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることとされています。またその実施及び公表等について定められています。本園では、これに先立って、平成 15 年度より自己点検評価票を作成しております。そして、平成 19 年度からは本園の教育方針、現状や今後の取り組むべき課題を「自己点検評価票」としてまとめ、ホームページにて公表することにいたしました。本園の現状をご理解いただきたく参考になれば幸いです。なお、本園は、この自己点検・評価を基に園を挙げて改善、改革に取り組み、より良い教育活動を行うように努めております。

教育目標	人生の基礎を培う幼児期に「みんななかよし すなおなこころ こんきのよさ」を園訓として、健康な身体づくりをするとともに、生活の自立を図る。
教育の特色	「混合教育」を中心としながら、健康な身体づくりを土台として、 ①幼稚園での生活から身につけること ②「遊び」から学ぶこと③友達と一緒に学び合うこと のそれぞれを大切にする。四季折々のさまざまな行事を通して、楽しみながら自己肯定感を育む。

	評価項目	具体的な取り組み
教育課程の編成と実施	幼児教育要領の内容を理解し、幼児の実態をふまえた教育課程の改善	2017 年度から「創造性を育む」ことを視点に、子供の育ちを捉え、創造性を育むための環境や教師の援助についてまとめた。2019 年度は、その 3 年間の取り組みのまとめの年として、「探求すること」や「深い学び」を創造性と関連づけながら、年齢ごとの具体的な子供の姿を捉えることに取り組んだ。年少年齢では、砂場遊びとごっこ遊びに焦点を置
	自園の伝統や特色を捉えた重点化	

	<p>幼児の発達を捉え、幼児の実態、園の特色をふまえた指導計画の立案実践</p>	<p>き、素材との出会いから、素材そのものを探求し、次第に素材を多様に扱うようになったり組み合わせたりしていく姿をまとめた。年中年齢では、積み木遊びとごっこ遊びに焦点を置いた。年少時に経験してきたことと、身の回りの様々な「ひと、もの、こと」から学ぶようになる育ちから、さらに工夫を凝らすようになる姿を捉えることができた。そして、年長年齢では、創造性を育むことに大きく影響する「友達との関わりを通して」ということに焦点を置いた。互いの経験や考えを合わせて新たな考えを生み出したり、構成しなおしたりと、友達と協力しながら主体的に解決に向かう姿など、「深い学び」へとつながる育ちを捉えることができた。3年間の実践を通して、「創造性を育む」ことへの理解を深めることができた。今後は、深い学びを支える視点から、さらに多様な環境の整備に努めていきたい。</p>
<p>研究研修</p>	<p>園内外の研修に積極的に参加し、資質の向上をはかる。資料や成果の共有と活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児教育の無償化について」と、「預かり保育へのニーズの増加に伴う改善と保育の質の確保について」をテーマに、内閣府会議委員の園長による研修を行い、急速に変化する時代に伴う幼児教育への要請などを共通理解した。 ・共立女子大学田代幸代先生を講師に招き、「ごっこ遊びの環境」をテーマに研修を行った。子供の興味関心と育ちを捉え、環境を工夫していくことの大切さを改めて学んだ。また、本園のごっこ遊びの環境とはどんなものであるかを紐解くワークショップを取り入れ、学んだ理論と、実際の本園の環境や実践を結びつけることができた。 ・世界文化社出版の保育誌「PriPriプリプリ」の毎月の特集記事「発達支援の現場から～育ちを捉える保育者のまなざし～」を作成し、掲載された。 ・小学館出版「幼児と保育」に掲載されている「3歳児指導計画」の編集を担当し、年少児の年間指導計画と月の指導案を作成した。 ・ひかりのくに出版「月刊保育とカリキュラム」の5歳児カリキュラム検討会議編集委員を担当し、月の指導案の検討会議に出席したり、指導案を作成したりした。

		<ul style="list-style-type: none"> ・「“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿”への理解を深めるための園内研修」をテーマとし、学年ごとのグループが、その理解を深めるために取り組んできた研修の内容をまとめ、ポスター発表をした。 →東京都私立幼稚園連合会研修への参加と研究発表 →全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研修会への参加と研究発表
保護者・地域との連携	近隣の学校や武蔵野東小学校との協力連携互恵性のある交流	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野東小学校との交流を通じた保育の実施 ・学園内園校間の教科連携 理科実験教室の実施 ・地域の行事への協力、参加
	保護者や地域の実情にあわせた子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・父親懇親会の実施 ・保護者会、個人懇談、保育公開の実施 ・未就園行事の実施 (わくわくデー、なかよしクラブ、園庭開放) ・地域の方の本園の教育への理解を促すための園舎公開の実施
	教育活動、園生活や園児の様子の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・保育観や子供の育ちが見えるクラスだよりを発行 ・WEB ページからの日々の情報提供やアプリ機能を積極的に行い、紙の利用を低減。 (MOTTAINAI運動) ・WEB ページに「園長の今日もいい日」を掲載し、幼児教育や幼児理解の視点について説明した。 ・教育環境への配慮が、誰が見ても分かるように視覚展示 ・ドキュメントシート(画像と文章によるクラスの成長の記録)を掲示し、来園者や保護者に、本園の教育の質の向上に関わる取り組みを視覚で伝えたり、子供の旬な学びや育ちの姿を知らせたりした。 ・ポートフォリオシート(画像と文章による個々の子供の成長の記録)を学期に1枚配布し、一年間の成長を伝えた。卒園する園児には幼稚園3年間の成長の記録とともに入園時の画像を添え、大きく成長したこを実感できる紙面として渡した。 ・保護者会を10月に実施し、園まつりに向かう子供たちの学びの姿を具体的なエピソードを通して伝え、作品を作る過程にある成長について保護者と共有した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーションを使って連絡を簡潔にするとともに、必要に応じてアンケートなども取り入れ、連携をスムーズにした。
安全管理	防災避難訓練の実施 防犯訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の自衛消防訓練総合訓練の実施 ・年1回の教職員の防犯訓練の実施 ・年1回の教職員の「AEDを用いた応急救護」「てんかん発作の対処法」「アナフィラキシーの対処法(エピペンの使用方法)」の研修実施
	施設整備の安全点検を定期的に行い危険の早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境の日々の安全点検実施、整理整頓 ・危険箇所のすみやかな補修
保健管理	幼児の健康にかかわる年間指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、手洗い、うがい、排泄など生活習慣の確立 ・生活のリズム、睡眠、食事の大切さの啓蒙
	健康診断の定期的な実施と幼児の健康状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教員によるれんらくアプリを活用した情報提供 ・内科、歯科検診、身体測定の実施と情報提供
預かり保育	保育後の園での過ごし方の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の充実とHPを活用した情報提供 ・れんらくアプリを利用した預かり保育申し込み ・利用者数増加に伴う予約方法の変更 ・夏期預かり保育の実施 ・冬期預かり保育の実施 ・春期預かり保育の実施
施設設備	施設・設備の点検や補修・改修・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・長期修繕計画の作成 ・指定業者による定期点検の実施 ・第一幼稚園の園庭改修。子供たちの身体活動を促すこと、季節の自然と出会い探求すること、表現することなど、様々な視点から、築山やステージの設置、砂場の増設などを行った。

2020年度の取り組み

・教育重点「深い学びを支える視点からの環境の整備」(1年次)

→2017年度から3年間かけ教育の重点として「創造性の育成」を掲げ、「深い学び」や「探求すること」と関連づけながら保育を進めてきたことを、さらに発展的に受け継ぐ。子供たちが遊びや生活を通して主体的に探究するための幅広く総合的な「環境」の在り方を考えていく。

・預かり保育について

→預かり保育のニーズの高まりへの対応として
利用定員増加。

第一幼稚園、第二幼稚園、両園舎に分かれた保育の実施。
保育要件のある方への優先予約期間の設定。

・給食の充実について

→年齢や個人に合わせて適量の昼食がとれるように、年中・年長クラスでは、ご飯の配膳を実施。おかずの品数も増加。

・れんらくアプリ(保護者連絡ツール)の有効活用

→紙面の配信のほか、必要に応じて動画の配信を行うことで、保護者とのコミュニケーション、教育への理解と子供の育ちや学びの共有などを促していく。